［博士論文審査要旨］

申請者：浅石梨沙

論文題目　市場志向における管理会計の役割期待に関する研究

－製品・サービスの企画・開発段階に焦点を当てて－

審査員　挽　文子

尾畑　裕

荒井　耕

本論文は、市場志向とは何か、そしてその実現に向けて製品およびサービスの企画・開発段階において管理会計が果たしてきた役割と課題、果たすべき役割期待は何かを明らかにすることを目的としている。

本論文では、既存顧客の潜在的または顕在的ニーズへの対応をニーズへの適応、将来の顧客または進歩的な顧客ニーズへの対応をニーズの創造に分類するとともに、マーケティング分野の市場志向研究に着目し、市場志向の概念的モデルとして提唱された顧客志向、競合志向、職能間調整という３つの行動的要素を分析フレームワークとして市場志向における管理会計の役割を考察している。この結果、製品の企画・開発段階に限定すると、ニーズへの適応とニーズの創造とではその実現に適切な管理会計システムが異なること、競合志向が果たす役割に違いがあり、ニーズへの適応では競合製品との関係で規定される市場価格に基づく原価企画が機能を果たしてきたものの、職能間調整において原価企画関連部門と非関連部門の間で軋轢が生じ得ること、その解決のためには顧客志向の製品コンセプトに基づく原価の細分割付けが必要であること、他方ニーズの創造では企画・開発の意思決定や価格決定において損益計算が重視され、職能間調整ではとくに研究開発とマーケティングの連携が重要であることなどを明らかにしている。

本論文の優れた点として、次の２点が挙げられる。第１に、市場志向の概念を明確にしたうえで分析を行ったことである。市場志向という名のもとに、実際にはそれを構成する競合志向に偏った運用により、管理会計が期待された効果を発揮するどころかむしろ逆機能へとつながったことなどが論理的に説明されている。第２に、製品の企画・開発に加えて、サービスの企画・開発についても体系的な分析を行ったことである。後者については、先行研究が不足しており、今後の実証研究の基礎となり得る理論を提示した点が高く評価できる。

ただし、本論文にも課題がないわけではない。ニーズへの適応とニーズの創造の違いについて納得のいく詳しい説明がなく、取り上げられている事例もどちらに分類すべきか悩ましいものが含まれている。分類をすることの意義を明確にすることが望まれる。しかしながら、これは今後の研究において十分に対応可能なものであり、本論文の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第５条第１項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。